

図書館だより

～ 今月のおすすめ本 ～



日本人の「食」、その知恵としきたり
永山久夫

ユネスコ無形文化遺産登録後、世界的にも注目を集めている和食。昔の日本人は、どのような「食」を、どのようなときに、どのようなしきたりのもとで食してきたのか。日本の食の素晴らしさと奥深さを伝えます。(東)

城下町に銘菓あり

玉井恵

会津若松の五郎兵衛鮎は、義経が弁慶を保証人に立てて、借金して食べたのだとか。將軍や大名の御用菓子から庶民の味まで、長年受け継がれてきた銘菓を、歴史やエピソード、写真とともに紹介しています。(西)

▶詳しくは、東図書館 ☎ 62・0190
西図書館 ☎ 75・5406) へ。



530 ごみブクロウの (方法)
『エコな生活ホーホー』教えます!

寒い日の
暖房にプラス
扇風機
暖気を循環
陽まであったか
「エコな冬生活」
ごみブクロウ流



「扇風機は夏だけ使うもの」と思っているそのあなた！実は、冬でも扇風機は活用できるんだよ！暖房を使うときに併用して、部屋の空気を循環させれば、効率よく部屋の隅々まで暖めることができるよ。温かい空気は上に流れる性質があるから、扇風機の風は天井に向けて送るようにしてね。
《生活環境課》

ドクターTのひとりごと その31 「私が選んだ 舞鶴市 10大ニュース」

新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり、昨年に続き、平成26年の本市10大ニュースを発表します。ニュースの選び方は昨年と同様、市役所の15部課において、それぞれの担当部署での重大ニュースを選定し、集められた117のニュース(重複含む)から、私自身が舞鶴市10大ニュースを選びました。

その結果、①海フェスタ京都開催(北部5市2町で来場者140万人、秋篠宮同妃両殿下ご訪問、京都舞鶴港西港記念花火など) ②引き揚げ資料がユネスコ世界記憶遺産の国内候補に決定 ③新たな「中丹地域医療再生計画」に基づき、療養病床に特化した新市民病院が開業 ④クルーズ客船の入港が過去最高の15回 ⑤舞鶴若狹自動車道が全線開通 ⑥全中学校で学校給食実施 ⑦舞鶴茶、全国茶品評会かぶせ茶の部で3年連続日本一の産地賞 ⑧小倉西舞鶴線(白鳥トンネル区間)4車線の事業化 ⑨8月の集中豪雨(8月16日・17日) ⑩コンテナ取扱量が過去最高。

平成25年に続き自然災害もありましたが、その他は市民の皆さんに大きな自信や将来への夢を提供できるニュースだと思います。今年は舞鶴版地方創生の実現に向けて努力し、来年も素晴らしい10大ニュースを報告したいと思っています。

防災ひとくちメモ もしものときに「備蓄のコツ」- 後編 - ～ “定番” 非常時持出品 ～

いつ発生するか分からない地震に備えて、日頃から非常時持出品を準備しておきましょう。(※13ページに関連記事)

必ず備えておきたい!

非常時持出品 **定番**

- 非常食
- 飲料水
- ヘルメット・防災ずきん
- 携帯ラジオ
- 懐中電灯・ろうそく
- 予備電池
- 毛布・タオル
- 救急医薬品・常備薬
- 貴重品
- 生活用品

【ポイント】

- ◆携帯電話(充電器含む)も忘れずに
- ◆チェックリストで定期的に点検
- ◆重さは持ち歩ける15kgまでが目安
- ◆消費期限や有効期限に注意
- ◆乳幼児や子ども、妊婦、高齢者、要介護者がいる家庭では、それぞれ必要な食料、生活用品、医薬品なども用意
- ◆すぐに取り出せるところに保管

《危機管理・防災課》

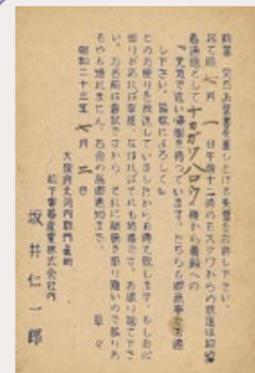
「引き揚げ」の記憶を次世代へ

引揚記念館に展示・保管している海外からの引き揚げやシベリア抑留などに関する約1万2千点の資料の中から、今回は「抑留者の安否を伝えたはがき」を紹介します。

シベリアへ強制連行された人々の中には、赤十字社やソ連側から配布された帰国用郵便はがきなどで安否を家族に知らせた人もいましたが、すべての収容所で配布されたわけではなく、日本に残された多くの家族は出征した夫や息子の無事の帰還を祈りながら不安な日々を送っていました。そのような中で、ソ連側は抑留者の安否情報を国営のラジオ放送である「モスクワ放送」を通じて日本側へ流していました。放送の内容は、女性アナウンサーの声で「元気で近い帰国を待っています(後略)」といったメッセージが流れたあとに、抑留者の氏名と日本の家族の住所、氏名が読み上げられるというものでしたが、その放送の存在を知る人はほとんどいませんでした。

終戦間もない昭和23年の夏、大阪府門真町(現:門真市)で、このラジオ放送を偶然耳にした青年がいました。当時25歳だった坂井仁一郎さんです。坂井さんは、仕事から帰宅してラジオを聴くことをとても楽しみにしていました。

その日も、帰宅してさっそくラジオをつけると、氏名と住所を繰り返し放送している番組を耳にしました。翌日、少し早い時間から同じ番組を聴くと、それがシベリアに強制連行された人々の安否情報であると分かりました。坂井さんは、「聴き逃してはならない」という思いでラジオから流れる住所と氏名を必死で聞き取ったといいます。



▲坂井さんが抑留者の家族に向けて送ったはがき

聞き取った住所を漢字に置き換え、全国にいる抑留者の家族に向けてはがきを送りました。その数約700通。はがき代はすべて私費を投じ、作業はたった1人で行いました。はがきを送って間もなく、安否情報の提供に感謝した各地の家族から、感謝の手紙やはがきが送られてきました。しかし、坂井さんの活動は、急激なインフレによってはがきの値段が4倍に値上げされたことなどから断念することになります。

次回は、そうした坂井さんの活動や各地から寄せられたお礼の声について詳しく紹介します。
▶詳しくは、引揚記念館 ☎ 68・0836) へ。

広げよう人権の輪 ～ 高齢者の人権を守るために ～

「特殊詐欺防いだ職員らに感謝状」これは、昨年10月の新聞の見出しです。市内に住む高齢の女性が金融機関の窓口で多額の現金を引き出そうとしたときに、特殊詐欺を疑った職員が警察と連携することで被害を未然に防ぎました。

一昨年の振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺の被害状況は、全国で認知件数が11,998件、被害総額が約489億円となり、全体の被害者の約8割が60歳以上となっています。内閣府の「人権擁護に関する世論調査」でも、高齢者に対する人権侵害の設問に対し、「悪徳商法の被害が多い」という回答が50%を超え、トップとなっています。

少子高齢化や核家族化が進む中で、ひとり暮らしや高齢者のみの世帯が増えたことにより、高齢者を取り巻くこうした事件が増えているように感じます。被害者の多くが「親切に話を聞いてくれた」「親身に相談に乗ってくれた」と犯人を信頼してしまっていますが、裏返せば、高齢者と家族や近所のコミュニケーションが希薄になっている現状があるのではないのでしょうか。

高齢者がいつでもすぐに相談できる状況であれば、そういった被害を防ぐことも可能になります。常に家族や

近所の人が高齢者の立場になって見守り、思いやりをもって接することが、高齢者の人権や安全・安心な生活を守ることにつながるのです。

市では、身のまわりにある人権問題に気付き、自らの問題として考えるきっかけとなることを目的に、人権啓発セミナーを開催します。みなさん、お問い合わせのうえご参加ください。詳しくは、下記事のとおり。

《人権啓発推進室》

おもしろい人生のすすめ～備えあれば憂いなし?～

《高齢者の人権を守るために》

◆日時
1月18日(日) 13時30分から

◆場所
総合文化会館小ホール

◆講師
いちのせかつみさん
(生活経済ジャーナリスト)



▲いちのせかつみさん

◆その他
予約・申し込み不要。磁気テープ・要約筆記・託児あり(託児は予約が必要)
▶詳しくは、人権啓発推進室 ☎ 66・1022) へ。